

目黒区文教・子ども委員会 視察報告書
-滝川市立図書館の取組み-

文教・子ども委員
たぞえ麻友

1. 視察先概要

10月28日（水）

北海道滝川市大町1-2-15 滝川市役所2階

滝川市立図書館訪問及び、担当理事者より説明

- ・ 滝川市立図書館はここ1館のみ。その他合併した旧江部乙市立図書館や公民館で図書館機能を提供しており、滝川市立図書館はその全てのセンターとしての役割を持つ。
- ・ 図書館の老朽化に伴う移転の際、限られた予算の中で市民の知を豊かにするための図書館新設を計画するうえで、随所に創意工夫が凝らされた図書館事業である。市役所内に併設という立地に始まり、市民から雑誌を寄付してもらう取組み（雑誌ささえ隊）や、開架スペースが少ない中で本を手にとってもらうための企画など、様々な取組みが行われていた。

2. 以前の図書館の問題点

- ①図書館の老朽化（昭和48竣工）
- ②耐震強度不足
- ③交通アクセスが悪い：市役所から約1km離れた堤防沿い。バス停留所もなく、周りには市立文化センター、美術館がある程度
- ④バリアフリー不対応
- ⑤狭い：蔵書約13万冊のうち、開架約3万冊程度

3. 移転計画

平成18年 図書館移転計画検討委員会（教育委員会内部）発足→図書館移転構想（案）策定
（特筆すべき検討事項：新築する場合の予算は20億円程度と試算され、財政上難なため、既存施設の利用が前提となった。利用しやすい「まちなか」に移転する方針の中、民間商業地も含めて移転先を検討。）

平成19年 図書館移転準備委員会（リープ21）設置（先の委員会よりも具体的な設備や防犯に関する担当所管も参加の委員会）

→新たな図書館基本構想・移転基本計画・基本的な考え方策定、アンケート実施

平成20年 旧図書館耐震診断、図書館まちなか移転企画書作成、社会教育審議会への諮問

平成21年 図書館まちなか移転検討部会発足、アンケート実施、魅力ある図書館づくり研修会、ワークショップ実施、教育委員会への答申、滝川市立図書館まちなか移転実施計画書作成

（特筆すべき検討事項：商店街や通学路等の通行人の多い地域にある市役所への移設。議会や市役所から市役所に図書館があることへの違和感など意見あり。）

平成22年 図書館移転実施設計

特筆すべき検討事項：市役所2階に図書館を移設するため、2階に構えていた課を3階に、3階に構えていた課を4階に移動。

平成23年11月12日 滝川市役所2階に新図書館開設

特筆すべき検討事項：総費用1億8千万円程度の内、旧まちづくり交付金（江部乙市と合併）を活用したことで、市の持ち出しは5千万円程度となった。

4. 新設図書館の基本方針

出会いといのちの森・図書館 ～子どもから大人まで幅広くいのちの大切さを発信する～

- ・子ども図書館 ～子どもと本との出会いの場をつくる～
- ・情報図書館 ～自己判断・自己責任の時代に対応する～
- ・市民協働 ～市民の参画による読書コミュニティの形成と魅力ある図書館づくり～

目標来館者：65,000人／年（開館日285日→1日平均232人）

H20年来館者数：39,000人（開館日278日→1日平均140人）

5. 現状

年間予算約750万円で蔵書の充実という課題もある中で、過去実績の約1.5倍の目標来館者数を達成するためには、従来のような本だけの情報提供では達成不可能であることから「多角的な情報収集・発信による『便利で役に立つ図書館』として市民に認知されることが必要」との基本的な考え方にに基づき、図書館が発信元となることができることは全てやるという意気込みで多種多様な取組みを実施している。

私見ではあるが、来館に直接つながる取組みだけでなく、本に触れてもらう機会や興味を増やす取組みも多く実施している点が大変面白いと感じた。後述する「図書館学級文庫」や「展示と講演会竹鶴政考と北海道 ～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～」など、市民の興味関心を惹き付けるために楽しい企画を提供している。

●連携事業

- ・行政連携 例) 学校連携：図書館学級文庫

子どもたちに本に触れる機会を増やすことを目的に、小学校に本を2,500冊持ち込み、並べて子ども達に学級文庫を選んでもらうブックフェスティバルを定期的開催。

- ・地域連携 例) 雑誌ささえ隊

- ・その他 例) 展示と講演会竹鶴政考と北海道 ～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～ 北海道が舞台のNHK連続テレビ小説「マッサン」の人気に伴い、そのモデルとなった竹鶴政考氏やリタ夫人・ウイスキーに関する資料や書籍の紹介と共に、講演会を実施。講演会では、図書館スタッフ全員がバーテンダーの衣装を着て接客するなどの遊び心も取り入れている。

●情報発信

- ・行政情報例) 市役所内にあるという特色を活かし、「行政情報コーナー」を設置し、行政サービスに関する冊子やパンフレットを豊富に提供

●基本機能の充実（蔵書、レファレンス、カウンターサービス等）

- ・カウンターサービス 例) おみくじ、手作りのしおり
- ・企画展示 例) ハロウィーン 関連本、仮装用衣装（その場での写真撮影可、騒がしくない程度に声を出すことも可）



● 来館者数推移（別紙1）

6. 目黒区図書館への質問

今回の視察先である滝川市立図書館は、図書館の充実はもちろんのこと、図書館外への本の送り出しなど、読者に会いに行く・発掘する・啓発することに積極的に取り組んでいる。目黒区は昨今、図書館の予算削減により、レファレンス機能の低下や学校図書館との連携希薄化などの問題が利用者から指摘されている。目黒区は子どもたちとの本の関わりをどう考えているのだろうか。目黒区教育委員会は「目黒区子ども読書活動推進のための方針」を平成21年3月に改定し、平成28年中に再び改定する予定とのことだが、これまでの進捗状況はどうなっているのか。

子ども達の本を取り巻く環境として、滝川市では街から書店が撤退し、本に触れる機会が減ることを危惧していたが、目黒区も商店街にあった書店が閉店するなど似たような状況だと感じている。特に子ども達が学校が終わってから書店に行く機会は減っている。学校図書館や児童館、学童保育、子ども放課後支援事業では、子どもが本を目にする機会を備えていることと思うが、手に取ってもらえているだろうか。

図書館内の蔵書の充実やレファレンスといった基本的なサービスの提供はもちろんのこと、図書館外へとそのサービス提供の幅を広げることで、本への興味関心を促し、結果として図書館の利用が増えるのではないだろうか。今後、「図書館基本構想」の改定の中で、図書館事業の方針を明確にし、創意工夫が進むことを望む。

7. 参考資料

滝川市社会教育審議会資料

http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/200soumubu/01soumu/01soumu_g/03shingikai/syakaikyoku/syakaikyoku.html